

地域レベルでの漁況海況情報の提供事業－ I 漁海況予報関連調査

久野正博・山田浩且・藤田弘一・中西尚文・沖 大樹

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、その結果に基づいて漁海況予報を行うとともに、漁海況情報を迅速に関係業者に通報して漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘および伊勢湾に設定した定点（図1）において、毎月1回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週1回発行した。

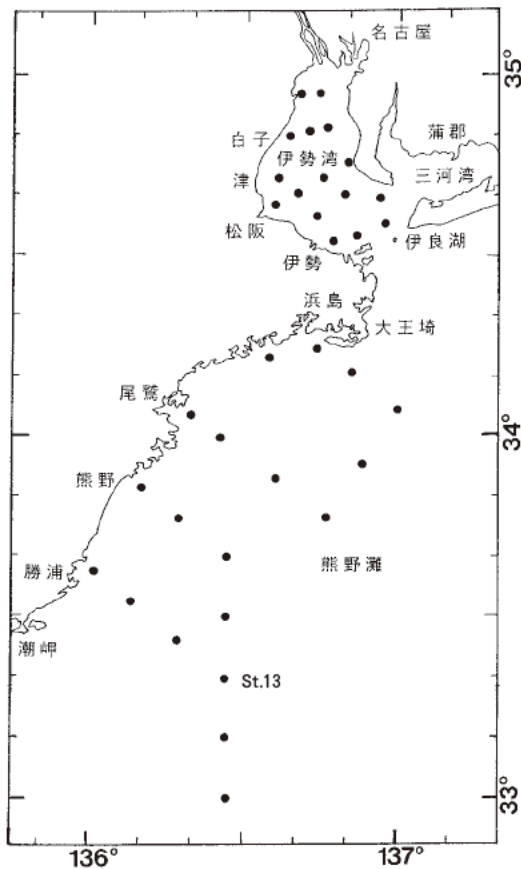


図1 熊野灘および伊勢湾の定線観測点

結果の概要

詳細については平成14年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。特異的な現象についても漁海況データ集に記載した。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路は、2001年末にN型になって以降、2002年～2003年3月はN型基調が持続し、潮岬以東では小規模な変動が主体であった。小規模な変動のうち、4月下旬～5月はじめは小規模なB型、5月上旬に小規模なC型流路となった。5月中旬にN型に戻り、その後は年度末までN型が持続した。

潮岬沖の黒潮は、一時的に小さく離岸した他は接岸基調で経過し、熊野灘沖で接岸傾向が強まることもあった。一時的な離岸は4月前半、8月下旬～9月上旬、1月中旬、1月末～2月上旬、2月末に見られ、3月末には離岸傾向がやや強まった。

12月上旬、黒潮小蛇行が九州東岸に形成され、1月中は九州東岸に停滞した。2月にこの小蛇行は東方へ大きく発達し、2月下旬には蛇行東端が室戸岬沖に達した。3月下旬に蛇行東端が潮岬沖に達し、3月末には潮岬沖で離岸傾向となった。

2. 熊野灘沿岸の水温は、前年度冬季の低水温傾向が4月には解消して、4月中旬は黒潮内側反流の影響で平年より高めとなった。5月には暖水波及が弱まり、ほぼ平年並みとなった。7月はじめに表面で低水温傾向が強まった他は8月まで平年並み基調で経過した。9月は高め傾向となり、50mでかなり高めであった。10月は表層でやや高めの他は平年並みとなった。11月に低め傾向となり、特に沿岸域の中層で低水温が顕著であった。12月以降も表面を中心に低め基調で経過したが、2月頃は一時的に平年並み～やや高めとなった。3月は中旬まで低め基調で経過したが、下旬には黒潮系暖水の流入によって北部から水温の急上昇が見られた。

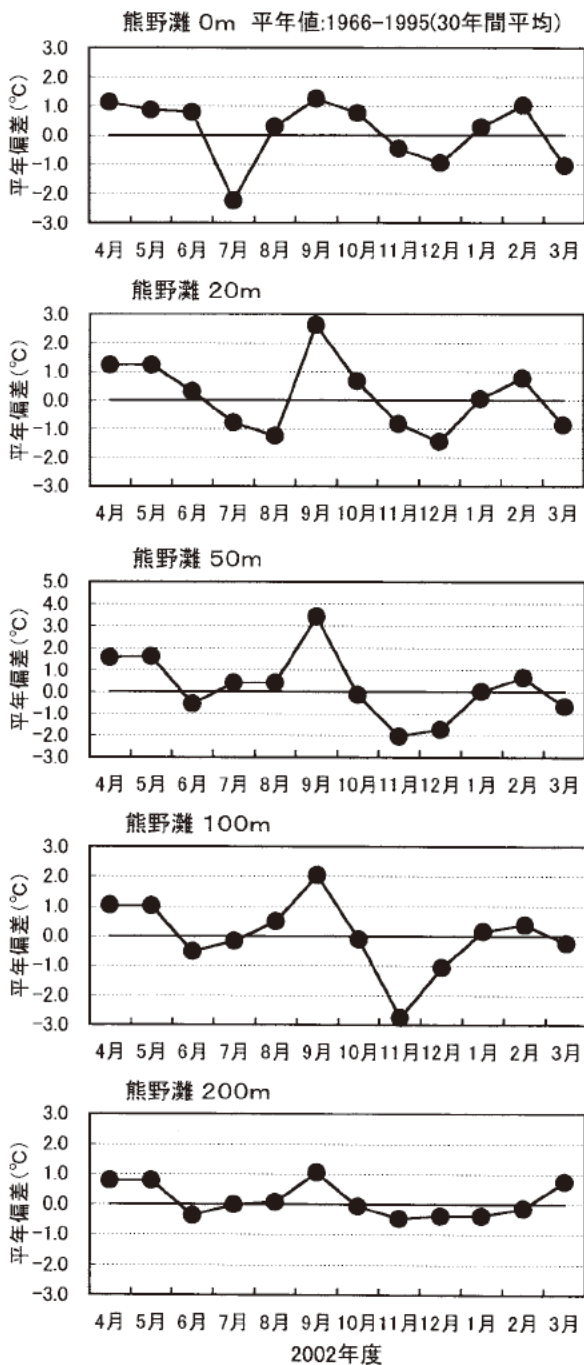


図2 熊野灘沿岸定線17測点平均の年々偏差

熊野灘への暖水波及は、伊豆半島沖で黒潮が接岸基調で推移したことから小規模な黒潮内側反流は比較的多く見られたものの、長期間持続するような大規模な暖水波及は年度を通して出現しなかった。やや規模の大きかった黒潮内側反流は4月中旬頃、8月中旬～下旬頃、10月中旬頃、1月中旬頃および2月上旬～中旬頃に見られた。潮岬に黒潮が接岸基調で経過したこと、南からの暖水波及（暖水舌）も比較的多く見られた。その中で5月

下旬頃、11月上旬頃の暖水舌はやや発達した。3月下旬には黒潮蛇行の一部が潮岬沖を通過し、蛇行北上部が大玉埼に接近して熊野灘に強い暖水波及を引き起こした。

浜島の定地水温（図3）は、前年度冬季の低水温が解消し、4月～6月は年よりやや高めで経過した。6月下旬および8月下旬は気温の低めを受けて年より1～2℃程度低くなったが、その他は10月下旬まで年並み～2℃前後高めで経過した。11月には気温の急激な低下などによって年を大きく下回るようになり、11月は低水温が顕著であった。その後も1月上旬まで年より1～2℃低い状態が持続した。1月中旬には年並みに回復し、2月中旬は年より1℃程度高めとなった。3月上旬～中旬は再び低水温傾向が強まったが、3月下旬には黒潮系暖水の流入によって水温の急上昇がみられた。

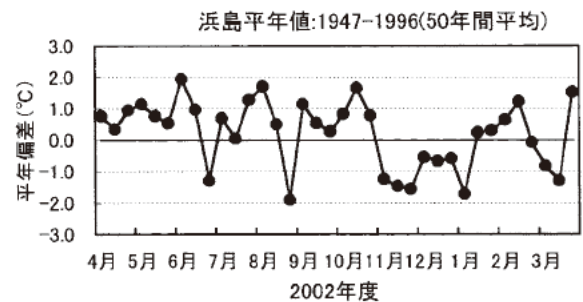


図3 浜島の旬別定地水温の年々偏差

3. 伊勢湾の表面水温は4～5月は高め基調、6～7月は年並み、8～10月は高め基調、11月～2月は低め基調、3月は年並みで推移した（表2、図4）。10m層および底層の水温変化も表層に準じた。

伊勢湾の塩分は全般に高め基調で経過し、8月および9月の表面ではかなり高めとなった。2～3月は全層で年並み～やや低めであった。

底層における貧酸素水塊（DO2ppm以下）の出現は6月観測時から確認され、7月には湾中央部から湾奥部にかけての広い範囲に分布した。7月における貧酸素水塊の分布面積は、年の同時期に比べてやや広がった。8月には外洋水の底層進入がみられ、貧酸素水塊が一時的に崩れた。9月には再び湾中央部から湾奥部にかけて広く分布した。10月には規模がやや縮小し、三重県側の湾奥部～湾中央部沿岸に偏って分布した。10月15日夜～16日朝にかけて東進した気圧の谷の影響により強い西風が卓越し、16日には伊勢湾の三重県側北・中部沿岸を中心に苦潮が発生した。11月観測時には貧酸素水塊は消滅

表1 沿岸定線17測点平均水温・塩分

月	水温 (°C)					塩分 (psu)				
	0m	20m	50m	100m	200m	0m	20m	50m	100m	200m
4	18.4	18.1	17.7	15.9	13.1	34.46	34.55	34.56	34.56	34.50
5	20.1	19.8	18.6	16.2	13.0	34.36	34.58	34.60	34.59	34.50
6	22.2	20.4	17.3	14.8	11.7	34.37	34.54	34.61	34.56	34.44
7	22.4	21.1	18.5	15.0	11.8	33.34	34.14	34.52	34.57	34.44
8	26.8	22.0	18.7	15.5	11.4	33.76	34.45	34.63	34.59	34.43
9	27.6	27.3	23.1	17.5	12.6	33.60	33.95	34.45	34.65	34.49
10	24.3	24.1	22.0	17.2	12.3	34.07	34.12	34.41	34.62	34.47
11	20.9	20.8	19.2	15.3	12.1	34.42	34.42	34.53	34.58	34.45
12	18.2	17.9	17.3	15.9	12.1	34.59	34.57	34.56	34.56	34.46
1	16.7	16.6	16.3	15.9	12.4	34.63	34.62	34.62	34.60	34.47
2	16.7	16.6	16.1	15.4	12.8	34.72	34.72	34.68	34.63	34.48
3	14.6	14.6	14.5	14.4	13.1	34.48	34.57	34.60	34.61	34.52

表2 浅海定線全測点平均水温・塩分・DO

月	水温 (°C)			塩分 (psu)			DO (ppm)		
	0m	10m	B-1m	0m	10m	B-1m	0m	10m	B-1m
4	14.7	13.5	13.2	29.52	31.93	33.02	9.6	9.0	6.1
5	18.9	16.6	15.5	26.38	31.82	33.00	9.3	7.7	4.7
6	21.9	18.4	17.1	28.97	32.57	33.25	8.6	8.0	3.8
7	23.8	20.5	18.6	28.60	32.24	33.21	8.5	5.9	2.3
8	28.7	23.0	21.6	27.25	32.62	33.35	7.1	4.3	3.1
9	27.7	26.0	23.8	30.10	32.42	32.95	7.9	6.5	2.8
10	22.6	23.1	23.7	29.86	31.61	32.78	8.1	7.3	3.8
11	16.7	16.9	17.1	31.25	32.29	33.12	8.0	7.8	6.8
12	12.4	12.7	13.4	32.14	32.71	33.07	8.7	8.6	8.0
1	9.0	9.2	9.9	32.11	32.44	32.88	10.4	10.0	9.0
2	8.3	8.4	8.7	32.12	32.28	32.65	9.8	9.8	9.3
3	9.1	9.3	9.7	31.26	32.07	32.43	9.4	9.3	8.8

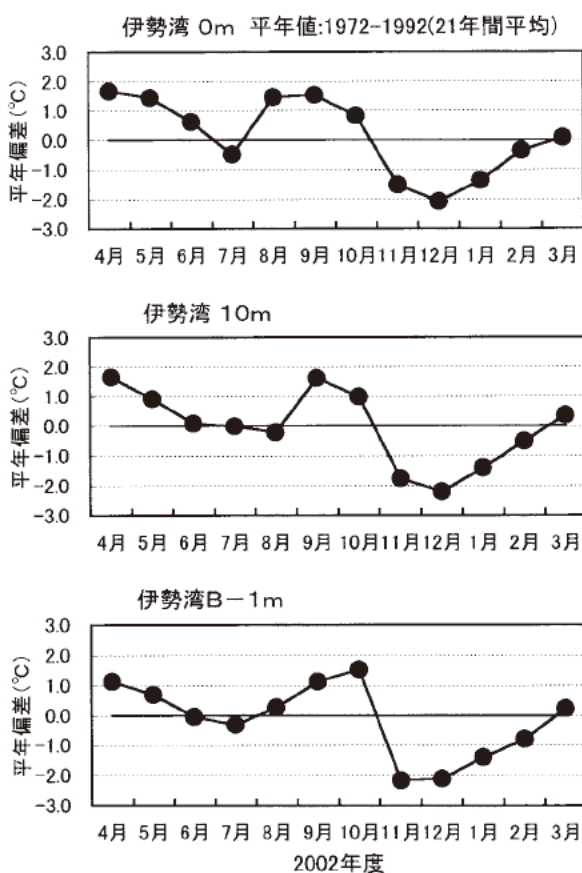


図4 伊勢湾浅海定線全測点平均の平年偏差

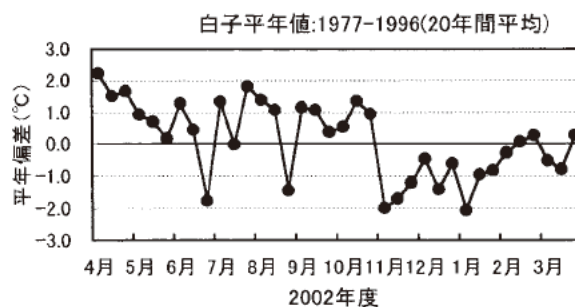


図5 白子の旬別定地水温の平年偏差

していた。

白子の定地水温(図5)は、6月下旬と8月下旬に低めとなった他は10月下旬まで高め基調で経過した。11月～1月は低め基調で経過し、2月にほぼ平年並みとなった。

関連報文

三重県(2003):平成14年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)。